

特記仕様書

1 業務目的

本業務は、森林法第5条の2の1で規定される地域森林計画対象森林（以下「対象森林」という。）内の森林資源情報（地番情報、林相情報）の精度を向上させることを目的とする。

2 業務概要

業務名 令和8年度森林資源情報精度向上業務

業務期間 契約締結日 ～ 令和9年2月26日

業務概要

- | | |
|---------------|----|
| ・ 計画準備（精度向上） | 1式 |
| ・ 地番情報レイヤ修正 | 1式 |
| ・ 林相情報レイヤ修正 | 1式 |
| ・ 報告書作成（精度向上） | 1式 |

3 業務責任者の選任

受注者は、委託業務を処理するに当たり、責任者として業務責任者を定め、業務処理責任者選任届を速やかに提出しなければならない。責任者を変更した場合も同様とする。また、照査技術者を別途配置すること。

4 業務計画及び打ち合わせ

受注者は、あらかじめ業務計画をたて、発注者の承認を得るものとし、業務の実施にあたっては、事前に業務担当職員と協議を十分に行い、業務を円滑に遂行しなければならない。

なお、作業の確認と作業結果を確認するため、中間確認検査を実施し、その後の処理について打ち合わせを行うものとする。

5 業務内容（精度向上）

（1）業務対象区域

- ・ 竹原市（全域）
- ・ 尾道市（全域）
- ・ 府中市（全域）
- ・ 江田島市（全域）
- ・ 熊野町（全域）
- ・ 坂町（全域）
- ・ 大崎上島町（全域）

（2）計画準備

貸与資料の確認を行い、作業方針と作業手順及び対応方針を作成し、発注者の確認を得るものとする。

（3）林相情報レイヤ修正（業務対象区域：竹原市、尾道市、府中市、江田島市、熊野町、坂町、大崎上島町）

林相情報レイヤを、貸与する森林区域レイヤに合わせて修正する。

ア 林相情報レイヤと森林区域レイヤを重ね合わせ、林相情報レイヤに不足している森林区域を追加する。方法の詳細については、発注者と協議することとする。

- ア) 追加区域が森林区域の外周部である場合、その内側の、接線が最も長い林相情報ポリゴンに結合し、面積を拡大する。ポリゴン同士の区割り線等は、結合される林相情報と自然な形状になるように調整する。属性値「ポリゴン面積」「更正面積」「最終更新日付」を、別紙1(2)のとおり更新する。
- イ) 追加区域が森林区域に囲まれている場合、ア)と同様に、接線が最も長い林相ポリゴンに結合し、面積を拡大する。
- ウ) 追加区域が他の森林区域と接していない場合、新たにポリゴンを追加する。属性値は別紙1(2)による。ただし、まとまった面積が0.3ha未満で、他の森林と施業上の関連もないと認められる箇所については追加しない。
- エ) 林相情報の追加区域に旧市町村界を設定する場合は、以下の手順で作業を行い、微小サイズで独立した旧市町村のポリゴンが発生しないようにすること。
 - ① 登記図が存在し、地籍調査により旧市町村の境界が判断可能である場合は、判断される境界をもって旧市町村界とする。その境界を超過した区域において、林相区域の追加を行う場合は、超過した先の、隣接する旧市町村のコードを付与すること。
 - ② 登記図が存在せず、旧市町村界が不明な場合は、追加区域として拡大させた林相情報ポリゴンを旧市町村界とする。ただし、目視判読で不自然な形状の場合は発注者に協議することとする。

イ 林相情報レイヤと森林区域レイヤを重ね合わせ、林相情報レイヤのうち、森林区域に重ならない部分を削除する。

区域の削除を行ったことで、林相ポリゴンがマルチポリゴン化した場合は、シングルポリゴンに分解する。ひとつのマルチポリゴンを分解したもののうち、最も面積の大きいポリゴン（主ポリゴン）を残存させ、その他のポリゴン（補ポリゴン）は隣接するポリゴン（結合先ポリゴン）に結合させ、消去する。詳細は以下のとおり。

主ポリゴン

分解後の更正面積	ポリゴン面積を樹種ごとの混合歩合で按分し、更正面積1～3に入力する。
ポリゴン面積	ポリゴン面積を入力する。

補ポリゴン

結合先ポリゴン	準林班内で隣接するポリゴンに結合する。 準林班内に隣接ポリゴンが存在しない場合において、その補ポリゴンの面積が1000㎡以上であれば、その補ポリゴンに一意の小班番号を振り、その補ポリゴンが1000㎡未満であれば、林班内で隣接するポリゴンと結合する。林班内に隣接ポリゴンが存在しない場合は、旧市町村内で隣接するポリゴンと結合する。旧市町村内においても、隣接ポリゴンが存在しない場合は、アのイ)作業と同様に登記図が存在する場合は、一意の小班番号を振り、登記図が存在しない場合、旧市町村を跨いで隣接ポリゴンと結合する。
---------	---

分解後の更正面積 (結合しない場合)	ポリゴン面積を樹種ごとの混合歩合で按分し、更正面積 1～3 に入力する。
ポリゴン面積 (結合しない場合)	ポリゴン面積を入力する。

結合後ポリゴン

結合後の更正面積	ポリゴン面積を入力する。
ポリゴン面積	ポリゴン面積を入力する。

ウ イで生じた 200 m²未満の微小ポリゴンについて、準林班内で隣接するポリゴンと結合し、消去する。準林班内に隣接ポリゴンが存在しない場合は、同林班の隣接するポリゴンと結合する。同林班に隣接するポリゴンが存在しない場合は、同旧市町村で隣接するポリゴンと結合する。同旧市町村に隣接するポリゴンが存在しない場合は、隣接ポリゴンと結合する。結合後、「ポリゴン面積」に結合したポリゴン面積を入力する。

(4) 地番情報レイヤ修正 (業務対象区域：竹原市、尾道市、府中市、江田島市、熊野町、坂町、大崎上島町)

地番情報レイヤについて、以下の修正を行う。

(4) - 1 受入検査

ア 登記図の検査

- ・地番に「X (分属管理地番)」「V (めがね地番)」「W (重複している地番)」を含む分割地番について、マルチポリゴン状態であれば解消する。「X」「V」を含む地番は「X」「V」以降を除去した地番にする。「W」を含む地番の「地番」はそのままとする。「X」を含む地番は隣接していて結合が可能であれば結合する。登記簿との突合には「X」「V」以降を除去した地番を用いる。
- ・登記図の「市区町村名」「大字名」「丁目」「小字名」「地番」が一意となるように重複ポリゴンを解消する。重複ポリゴン同士的位置が離れている、経緯が不明であるなど、解消できないものについてはそのままとする。
- ・同一形状で異なる地番のデータがないか確認する。
- ・「無地番」と「無地番以外」の筆が重なっている箇所について、同一とみられる場合は「無地番」を除去する。

イ 登記簿の検査

- ・「大字」に「字」まで付与されていないか確認する。含まれている場合、「字」以降を消去する。(この際、大字由来の「字」の字 (例：大字十文字など) を消去しないように考慮すること。)
- ・「大字」と「字」の外字が地番情報の外字と表記方法が一致しているか確認する。

ウ 大字小字マスタの検査

- ・貸与する地番情報に存在し、大字小字マスタに存在しない「大字漢字」「小字漢字」を大字小字マスタに追加する。表記ゆれは貸与された地番情報の表記を正とし、大字小字マスタを更新すること。

(4) - 2 地番情報レイヤの修正

ア 現況の地番情報レイヤの出典「S」「SH」「H」のポリゴンで、登記図とポリゴン形状が異なる区域を登記図で置き換える (出典を「H」とする)。登記図上の筆界未定地ポリゴンは置き換え

ないこととし、筆界未定地の区域内に含まれる地番情報レイヤのポリゴンは、筆界未定地ポリゴンの外枠の形に調整し、残存させる（出典を「SH」とする）。その際、筆界未定地ポリゴン同士が隣接している場合は、筆界未定地同士の境界は無視し、境界未定地ポリゴン群の外枠の形に調整した。ただし、10m²未満のポリゴンは隣接する「SH」ポリゴンと融合する。

イ 登記図レイヤ、地番情報レイヤと、修正後林相情報レイヤを重ね合わせ、森林区域に1 m²以上重なる登記図ポリゴンのうち、地番情報レイヤ上に存在しない個所を、地番情報レイヤに追加する。登記図が存在しない区域については、「S」地番に隣接している場合、その隣接した「S」地番を拡大させる。「H」地番のみに隣接している、もしくは他の地番情報ポリゴンに隣接しない場合は、新規「不明地番 1、2…」としてポリゴンを追加する。ただし、以下の場合は不明地番を作成しない。

- ・ 10 m²未満
- ・ 「H」地番に囲まれている狭長なエリア（筆の隙間とみられる箇所）
- ・ 「H」の外周部で最大幅が5m 未満

ウ 地番情報レイヤのうち森林区域レイヤに重ならない、または1 m²未満しか重ならないポリゴンの地番について、「異動区分」に「3」（削除）を入力する。

エ 「地番」がW・R・N・E又は不明地番以外で、「不動産番号」が空欄の地番について、以下により処理する。なお、登記簿の大字・字冠は削除した上で突合・付与を行うこと。既存の地番について、出典「H」で「X」「V」を含む地番は「X」「V」以降を除去した「地番」に修正してから突合する。地番データの「小字漢字」が付与されているデータについては、イ) で突合しなかった場合、ロ) 及びイ) の処理は実施しない。但し、ウ作業で異動区分に3を入力した地番情報ポリゴンは、作業の対象外とする。

- ア) 登記簿の「大字」「字」「登記簿地番」で一意に確定する地番について、地番データの「大字漢字」「小字漢字」「地番」と、登記簿の「大字」「字」「登記簿地番」を突合し、登記簿の「不動産番号」と「地番 KEY」を、地番データの「不動産番号」と「地番 KEY」に付与する。
- イ) ア) で一意に確定できなかった地番のうち、登記簿の「大字」「字」「登記簿地番」「記号」で一意に確定する地番について、地番データの「大字漢字」「小字漢字」「地番」「予備名」と、登記簿の「大字」「字」「登記簿地番」「記号」を突合し、登記簿の「不動産番号」と「地番 KEY」を、地番データの「不動産番号」と「地番 KEY」に付与する。
- ロ) 登記簿の「大字」「登記簿地番」で一意に確定する地番と、地番データの「地番 KEY」の重複を除いたうえで「大字漢字」「地番」で一意に確定する地番をそれぞれ抽出する。イ) で一意に確定できない地番について、抽出した地番データの「大字漢字」「地番」と、抽出した登記簿の「大字」「登記簿地番」を突合し、登記簿の「不動産番号」と「地番 KEY」を、地番 KEY 重複除去前の地番データの「不動産番号」と「地番 KEY」に付与する。
- ハ) 登記簿の「大字」「登記簿地番」「記号」で一意に確定する地番と、地番データの「地番 KEY」の重複を除いたうえで「大字漢字」「地番」「予備名」で一意に確定する地番をそれぞれ抽出する。ロ) で一意に確定できない地番のうち、抽出した地番データの「大字漢字」「地番」「予備名」と、抽出した登記簿の「大字」「登記簿地番」「記号」を突合し、登記簿の「不動産番号」と「地番 KEY」を、地番 KEY 重複除去前の地番データの「不動産番号」と「地番 KEY」に付与する。

オ 出典「S」「SH」の地番で、出典「H」に同一の地番 KEY が存在している場合、隣接する接線

が最も長い出典が同一なポリゴン「S」「SH」ポリゴンと融合する。但し、ウ作業で異動区分に3を入力した地番情報ポリゴンは、結合の対象外とする。融合できるポリゴンがなかった場合、まとめて一つの不明地番とする。

- カ 出典が「S」「SH」で「不動産番号」が付与されている地番情報の「不動産番号」と登記簿の「不動産番号」を突合し、登記簿と突合できなかった地番について、登記簿の表示履歴で合筆されている地番の有無を検索する。合筆が確認でき、合筆後地番が存在していれば、表示履歴に記載のある全ての合筆前地番を隣接する接線が最も長い同一出典のポリゴンと融合する。合筆が確認できるが、合筆後地番が存在していなければ、表示履歴に記載のある全ての合筆前地番の中で、ポリゴン面積の最も大きいものに別紙1(1)により合筆後地番と不動産番号等を入力し、残りのポリゴンは隣接する接線が最も長い同一出典のポリゴンと融合する。但し、ウ作業で異動区分に3を入力した地番情報ポリゴンは、合筆前地番及び合筆後地番の検索の対象外とする。
- キ 地番情報の「地番」がW・R・N・E又は不明地番以外のレコードについて、地番情報と登記簿の不動産番号を突合し、不動産番号が空欄または登記簿と突合できなかった地番情報レコードについて、リストをBDS形式で発注者に提示し、扱いについて発注者の確認を受ける。但し、ウ作業で異動区分に3を入力した地番情報ポリゴンは、作業対象外とする。
- ク ア～キにより追加又は更新した地番情報ポリゴンの属性を別紙1(1)により更新する。なお、追加又は更新されなかった地番情報ポリゴンは修正前地番情報ポリゴンの属性値を引き継ぐ。但し、ウ作業で異動区分に3を入力した地番情報ポリゴンは、作業対象外とする。

(5) 林相情報の旧市町村界の調整

林相情報の旧市町村界について、以下の手順で作業を行って再設定する。この処理により属性を変更したポリゴンについては「最終更新日付」「最終更新者」「作成年度」を、別紙1(1)をもとに更新する。方法の詳細については、林相情報の旧市町村界と地番情報の市町村界が可能な限り大きく異ならない、微小サイズで独立した旧市町村のポリゴンが発生しない、林相情報レイヤの旧市町村界が目視判読で不自然な形状とならないように発注者と協議すること。

- ア 地番情報のポリゴンの異動区分に3が設定されているものを除外したものより、旧市町村の境界を旧市町村界とすることとし、以下の処理をする。但し、境界部の地番情報が重複している場合、どちらかの境界を採用することとする。
- イ 林相情報レイヤの各ポリゴンについて、旧市町村界と異なる場合、林相情報ポリゴンの市町村欄を旧市町村界の市町村で更新する。この場合の林班番号、準林班番号は変更後の旧市町村内で近接する林班番号、準林班番号をそれぞれ入力する。複数の林班又は準林班に接している場合には最も接線が長いポリゴンの林班又は準林班番号を採用する。なお、林班については15ha目安、準林班については5ha目安でまとめて変更する場合は、番号について発注者と協議する。小班は同じ準林班内の他の小班ポリゴンと重複しない番号を新規採番、小班枝班及び施業班は「00」と入力した上で、林小KEY及び施業班KEYを入力する。
- ウ 林相情報レイヤの各ポリゴンについて、旧市町村界をまたがる場合、旧市町村界で分割して市町村欄を変更する。この際、200㎡未満の微小ポリゴンが発生した場合は、最も接線が長い同一の市町村の林相情報ポリゴンと融合することとするが、融合できなかった分割ポリゴンのうち10㎡未満の微小ポリゴンは分割前の林相情報ポリゴンに融合する。分割後、市町村欄を変更した林相ポリゴンについて、変更後の市町村の既存の林相ポリゴンとの重複を解消し、イと同様に市町村、林班・準林班・小班・小班枝班・施業班・林小KEY・施業班KEYを入力する。なお、林班については15ha目安、準林班については5ha目安でまとめて変更する場合は、番号について発注

者と協議する。

(6) 面積再計算

地番情報の全てのレコードの「ポリゴン面積」にポリゴン面積を再計算して入力する。

林相情報の全てのレコードの「混合歩合 1～3」の計が 100 となるよう「混合歩合 1」を調整する。「更正面積 1～3」にポリゴン面積を「混合歩合 1～3」で按分した数値を入力し、「ポリゴン面積」にはポリゴン面積を入力する。

(7) 作業結果データ確認

各レイヤについて、微小ポリゴンや微小な空隙、エラーポリゴン（自己交差、重複ノード、ノード 3 未満のポリゴン）の有無を確認する。

各レイヤの追加区域について、属性のエラー等（文字形式の統一、データの抜けや 0 値等）の有無を確認し、やむを得ないエラー値については報告する。

レイヤの属性情報について、データ型等のエラーや文字化け、空欄（引用元データが元々ない場合を除く）等の有無を確認する。

7 分析

完成したデータについて、次のア～ウの分析と修正前との比較を行う。

ア 全体の面積、齢級構成

イ 人工林、天然林別の面積、齢級構成

ウ 樹種別の面積、齢級構成

8 報告書作成

本業務にて実施した作業内容（処理方針と処理方法）と分析結果を業務報告書としてとりまとめる。

9 業務の成果品

本業務の成果品は次のとおりとし、DVD-R に入れて納品する。

○ 精度向上業務

- ・ 修正後地番情報レイヤ、修正後林相情報レイヤデータ（shape 及び bds 形式）
- ・ 追加された地番情報の差分レイヤデータ（bds 形式）
- ・ 削除された地番情報のレイヤデータ（bds 形式）
- ・ 追加された林相情報の差分レイヤデータ（bds 形式）
- ・ 削除された林相情報の差分レイヤデータ（bds 形式）
- ・ 修正後林相情報レイヤ分析データ

10 貸与資料

本業務遂行にあたり、発注者は受注者に対して以下の資料を貸与するものとする。

- ・ 林相情報、地番情報レイヤデータ（業務対象区域）
- ・ 森林区域レイヤデータ（業務対象区域）
- ・ 登記図レイヤデータ（業務対象区域）
- ・ 大字マスタ・小字マスタ（業務対象区域）

- ・コード表
- ・その他業務に必要なデータで発注者が認めたもの

11 機密情報及び個人情報

受注者は、機密情報及び個人情報を、善良なる管理者の注意義務をもって管理するものとする。

12 権利の帰属

本業務の成果にかかる一切の権利は発注者に帰属するものとし、受注者は、発注者の許可なく他者に公開してはならない。

13 その他

本仕様書に記載のない事項及び疑義が生じた場合は、契約書によるほか、発注者、受注者による綿密な協議の上、誠実に本業務を遂行するものとする。

別紙 1

(1) 5 (4) —2で地番情報ポリゴンの属性を更新する際の属性について

追加や更新が無く、A～Dに該当しないポリゴンは修正前地番情報のデータを引き継ぐものとする。

表 1 属性項目の入力方法

項目	A 新規不明地番ポリゴン	B 登記図由来追加 (置換) 地番ポリゴン	C B 以外で不動産番号が付与されたポリゴン	D 合筆後地番が存在しない場合	入力方法
GEOMETRY					(ポリゴンの情報)
GID	自動採番	自動採番	自動採番	自動採番	オートナンバー型による自動採番とする
新市町	【クにより付与】 市区町村名をもとに付与	【クにより付与】 市区町村名をもとに付与	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】修正前地番情報データを引き継ぐ	合併後 (現在) の市町村コード。(広島市が政令指定都市になったことにより、総務省地方公共団体コードとは異なっている (100→201)) 表 2 をもとにコードを入力
市町村	【クにより付与】 「大字漢字」と大字マスタを突合し、市町村コードを付与	【クにより付与】 「大字漢字」と大字マスタを突合し、市町村コードを付与	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】修正前地番情報データを引き継ぐ	合併前の総務省地方公共団体コード表 3 をもとにコードを入力
市区町村コード	【クにより付与】 市区町村名をもとに付与	【クにより付与】 市区町村名をもとに付与	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】修正前地番情報データを引き継ぐ	合併後 (現在) の総務省地方公共団体コード。
市区町村名	【イ・オ】不明地番	【ア】登記図	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】修正前地番情報データを引き継ぐ	合併後の市町名。 表 2 の市区町村名のいずれかを入力。
大字	【クにより付与】	【クにより付与】	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】	大字コード 大字マスタをもとにコードを入力 マスタにない大字は、発注者に協議
大字漢字	【イ・オ】不明地番 大字レイヤと重ね合わせ、重なり面積の一番大きい大字情報を入力	【ア】登記図	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより合筆後地番の登記簿から付与】	表記ゆれは貸与された地番情報の表記を正とし、大字マスタを更新する 「大字」は消去し、表記を大字マスタと一致させる 登記図由来の場合は「大字名」「丁目名」を連結し、大字マスタと突合させる
小字	空欄	【クにより付与】	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】	小字コード 小字マスタをもとにコードを入力 マスタにない小字は、新コードをマスタに追加する
小字漢字	空欄	【ア】登記図 【空欄の場合、クにより付与】 不動産番号で登記簿データと突合し入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより合筆後地番の登記簿から付与】	表記ゆれは貸与された地番情報の表記を正とし、小字マスタを更新する 「字」は消去し、表記を小字マスタと一致させる
地番	【イ・オ】不明地番	【ア】登記図	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】合筆後地番	地番 もしくは アルファベット (略記号) 水:W 道:R 無地番:N 筆界未定地:E 長狭物不明:R ※半角英数字
予備名	空欄	【ア】登記図	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより登記簿から付与】	山地番・耕地番の別
出典	【イ・オにより付与】 「S」または「SH」を入力	【アにより付与】 「H」を入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	【カにより付与】修正前地番情報データを引き継ぐ	H: 法務局地籍図由来=地籍調査済 S: 森林計画図由来=地籍調査未 SH: 地籍済みだが、外周部のみ地籍調査済で内部は計画図の線が残っていて筆界未定
登記簿不突合	空欄	空欄	空欄	空欄	
地番 KEY	【エにより付与】 市町村名・大字漢字・小字漢字・地番を結合させて作成	【エにより更新】 市町村名・大字漢字・小字漢字・地番を結合させて作成	【エにより付与】 市町村名・大字漢字・小字漢字・地番を結合させて作成	【カにより付与】 合筆後地番を用いて市町村名・大字漢字・小字漢字・地番を結合させて作成	全角文字
表示地番	空欄	空欄	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
表示地番 2	空欄	空欄	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
ポリゴン面積	【(6) により更新】 ポリゴン面積を入力	【(6) により更新】 ポリゴン面積を入力	【(6) により更新】 ポリゴン面積を入力	【(6) により更新】 ポリゴン面積を入力	ha 単位、小数点以下 4 桁
森林所有者名漢字	空欄	【クにより付与】 不動産番号 (空欄の場合は地番 KEY) で修正前地番情報データと突合し入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
森林所有者名カナ	空欄	【クにより付与】 不動産番号 (空欄の場合は地番 KEY) で修正前地番情報データと突合し入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
所有形態森林	空欄	【クにより付与】 不動産番号 (空欄の場合は地番 KEY) で修正前地番情報データと突合し入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
所有形態土地	空欄	【クにより付与】 不動産番号 (空欄の場合は地番 KEY) で修正前地番情報データと突合し入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
在不在	空欄	【クにより付与】 不動産番号 (空欄の場合は地番 KEY) で修正前地番情報データと突合し入力	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
登記簿所有者	空欄	空欄	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
登記簿所有者住所	空欄	空欄	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	
共有の有無	空欄	空欄	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	修正前地番情報データの値を引き継ぐ	

任意項目 1	空欄	【クにより付与】 不動産番号（空欄の場合は地番 KEY）で修正前地番情報データと 突合し入力	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	
任意項目 2	空欄	【クにより付与】 不動産番号（空欄の場合は地番 KEY）で修正前地番情報データと 突合し入力	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	
任意項目 3	空欄	【クにより付与】 不動産番号（空欄の場合は地番 KEY）で修正前地番情報データと 突合し入力	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	
森林の異動	空欄	空欄	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	
異動区分	空欄	【ウにより更新】 森林区域レイヤに重ならない、 または 1 m 未満しか重ならない ポリゴンの地番について、「異動 区分」に「3」（削除）を入力す る。それ以外は空欄とする。	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	
最終更新日付	業務期間のうち、任意の 1 日を入 力	業務期間のうち、任意の 1 日を入 力	【ア〜キで形状に変更のあった ポリゴン】 業務期間のうち、任意の 1 日を入 力 【上記以外】 修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	【ア〜キで形状に変更のあった ポリゴン】 業務期間のうち、任意の 1 日を入 力 【上記以外】 修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	YYYYMMDDHHMM
最終更新者	「2026 年森林資源情報精度向上 業務」と入力	「2026 年森林資源情報精度向上 業務」と入力	【ア〜キで形状に変更のあった ポリゴン】 「2026 年森林資源情報精度向上 業務」と入力 【上記以外】 修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	【ア〜キで形状に変更のあった ポリゴン】 「2026 年森林資源情報精度向上 業務」と入力 【上記以外】 修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	
作成年度	2026 を入力	2026 を入力	【ア〜キで形状に変更のあった ポリゴン】 2026 を入力 【上記以外】 修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	【ア〜キで形状に変更のあった ポリゴン】 2026 を入力 【上記以外】 修正前地番情報データの値を引き 継ぐ	半角数字（西暦 4 桁）

データ型は既存のデータと同一とします。

表 2 新市町

新市町	市区町村コード	市区町村名
203	203	竹原市
205	205	尾道市
208	208	府中市
215	215	江田島市
307	307	熊野町
309	309	坂町
431	431	大崎上島町

表 3 市町村

203	竹原市
205	尾道市（尾道）
206	尾道市（因島）
430	尾道市（瀬戸田）
441	尾道市（御調）
444	尾道市（向島）
208	府中市（府中）
521	府中市（協和）
561	府中市（上下）
310	江田島市（江田島）
328	江田島市（能美）
329	江田島市（沖美）
330	江田島市（大柿）
307	安芸郡（熊野町）
309	安芸郡（坂町）
427	豊田郡 大崎上島町（大崎）
428	豊田郡 大崎上島町（東野）
429	豊田郡 大崎上島町（木江）

- (2) 5 (3) ア (ウ)で新規追加する林相情報レイヤの属性について
 ((7) (イ)で結合する場合は面積・更新日付以外は結合先ポリゴンの属性を引用する。)

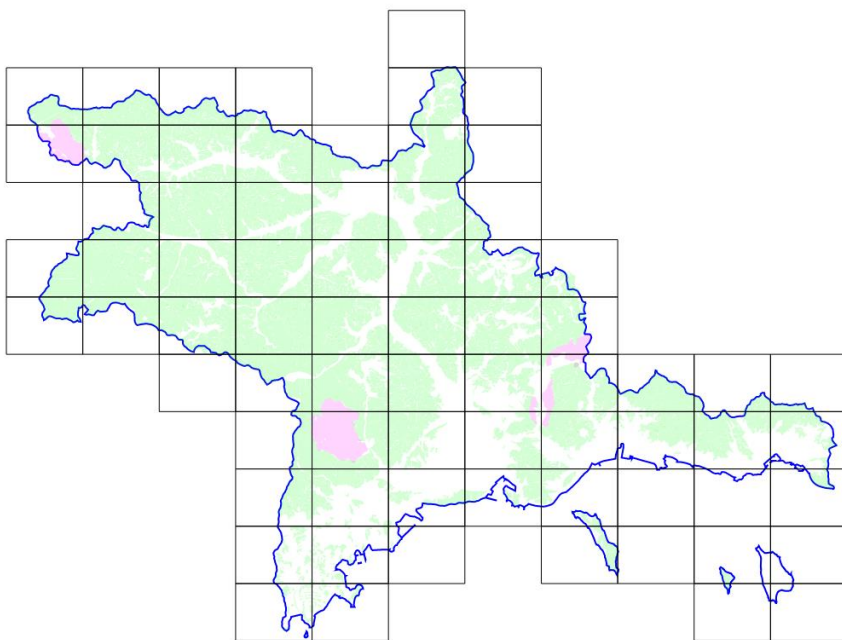
表4 属性項目の入力方法

項目	入力方法	備考
GEOMETRY	(ポリゴンの情報)	
GID	空欄もしくはオートナンバー型による自動採番とする	
新市町	同市町のコードをもとに、表2のいずれかを入力	
市町村	別紙(1)表3の市町村コードをもとに入力	
林班	追加したポリゴンに近接する林班番号を入力 複数林班に隣接している場合には、最も接線が長いポリゴンの林班番号を採用する	15ha 目安でまとまって区域の追加がある場合には、番号について発注者と協議する
準林班	追加したポリゴンに近接する準林班番号を入力 複数準林班に隣接している場合には、最も接線が長いポリゴンの準林班番号を採用する	5ha 目安でまとまって区域の追加がある場合には、番号について発注者と協議する
小班	同じ準林班内の他の小班ポリゴンと重複しない番号を新規採番する	
小班枝番	「00」を入力	
施業班	「00」を入力	
キー施業班	空欄とする	
キーチェック値	空欄とする	
ポリゴン面積	ポリゴン面積を入力	h a 単位、小数点以下4桁
調査年度	空欄とする	
林種	隣接ポリゴンより引用	
混交林の判定	隣接ポリゴンより引用	
樹種	隣接ポリゴンより引用	
林齢	隣接ポリゴンより引用	
更正面積	ポリゴン面積を混交歩合で按分した数値を入力	h a 単位、小数点以下4桁
混交歩合	隣接ポリゴンより引用	
樹種2	隣接ポリゴンより引用	
林齢2	隣接ポリゴンより引用	
更正面積2	ポリゴン面積を混交歩合2で按分した数値を入力	h a 単位、小数点以下4桁
混交歩合2	隣接ポリゴンより引用	
樹種3	隣接ポリゴンより引用	
林齢3	隣接ポリゴンより引用	
更正面積3	ポリゴン面積を混交歩合3で按分した数値を入力	h a 単位、小数点以下4桁
混交歩合3	隣接ポリゴンより引用	
疎密度	隣接ポリゴンより引用	
伐採種	隣接ポリゴンより引用	
最終更新日付	業務期間のうち、任意の1日を入力	YYYYMMDDHHMM
最終更新者	「2026年森林資源情報精度向上業務」と入力	
林小KEY	市町村コード～施業班までを連結したコードを入力	
施業班KEY	市町村コード～施業班までを連結したコードを入力	
森林の異動	空欄とする	

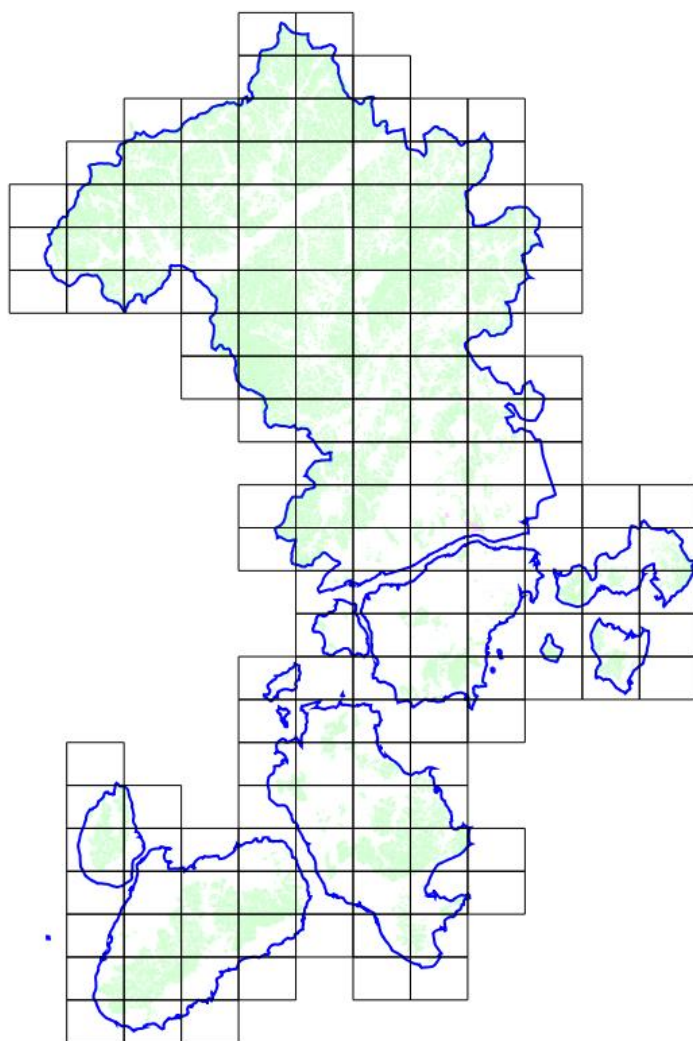
異動区分	空欄とする	
面積採用	「1」と入力	半角数字
公表面積	空欄とする	
ha あたり材積	隣接ポリゴンより引用	
成長率	隣接ポリゴンより引用	
連年成長量	隣接ポリゴンより引用	
総材積	空欄とする	
ha あたり材積 2	隣接ポリゴンより引用	
成長率 2	隣接ポリゴンより引用	
連年成長量 2	隣接ポリゴンより引用	
総材積 2	空欄とする	
ha あたり材積 3	隣接ポリゴンより引用	
成長率 3	隣接ポリゴンより引用	
連年成長量 3	隣接ポリゴンより引用	
総材積 3	空欄とする	
樹種名	隣接ポリゴンより引用	
樹種名 2	隣接ポリゴンより引用	
樹種名 3	隣接ポリゴンより引用	

データ型は既存のデータと同一とする。

・竹原市

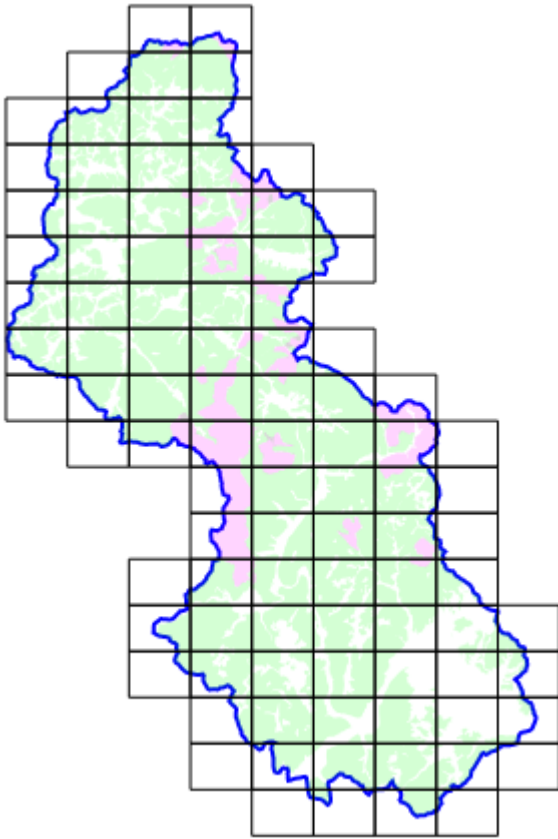


・尾道市

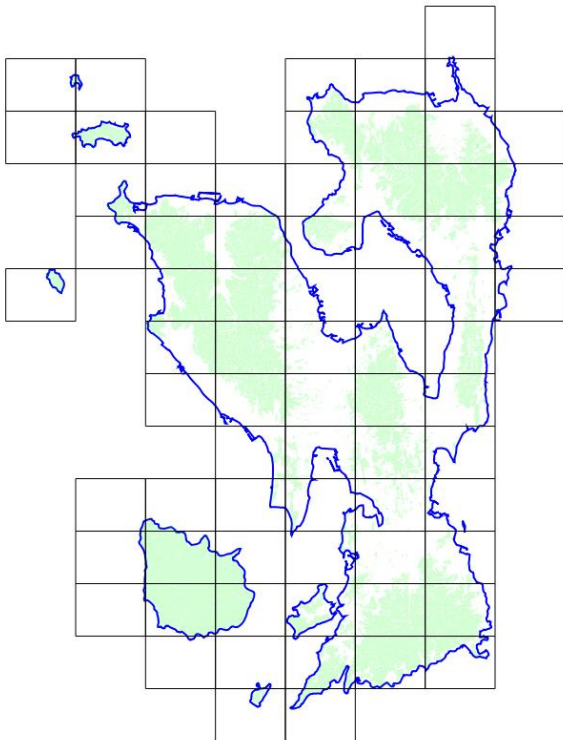


■ 森林区域
■ 国有林

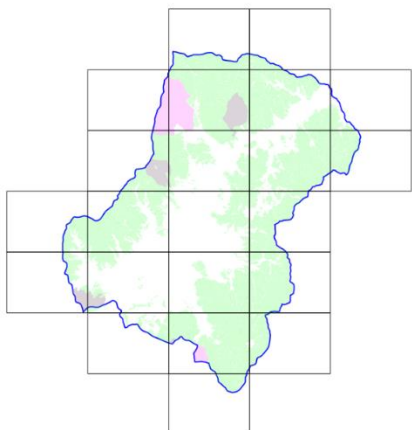
・府中市



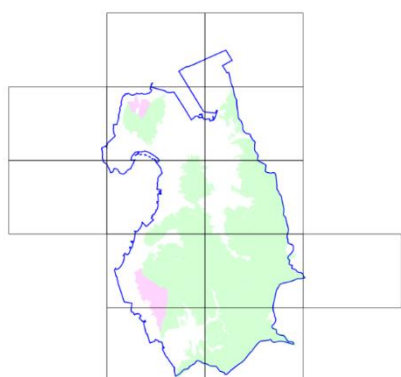
・江田島市



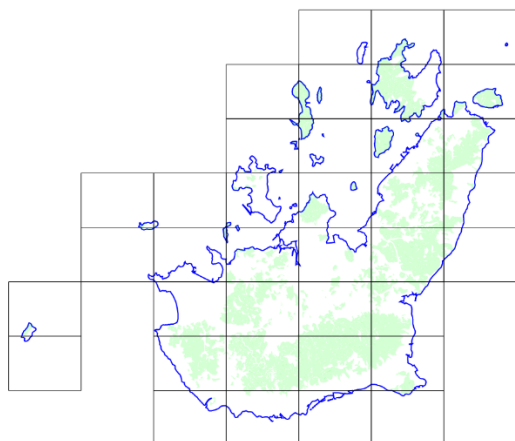
・熊野町



・坂町



・大崎上島町



■ 森林区域
■ 国有林